平成 31 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	8	学校名	県立日立北高等学校				課程	全日制		学校長名	鈴木 仁					
教頭名	黒崎 かおる								事務長名	添田 裕由						
教職員数	教諭	41	養護教諭 助	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習実習 教諭 講師 助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	61
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	18				
		128	112	127	112	137	101			392	325					

2 目指す学校像

- (1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。
- (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を確立する。
- (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。
- (4) 生徒一人ひとりを大切にする教育を実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒の学習態度は概ね意欲的であるが、一部の生徒は与えられた課題にしか取り組んでいない。今後は積極的な学習態度を身に付けさせ、家庭学習時間を増やす指導が必要である。	生徒が自ら学習課題を見だし、積極的に学ぼうとする姿勢を身につけさせるにはどのような指導が必要か。
進路指導	3年間を見通した系統的なキャリア教育を展開し、安定した進学実績を残している。但し、生徒の多くは未だ難関大学に挑戦する気概に乏しく、進路実現のための準備が遅い傾向にある。	生徒一人ひとりが自己の能力・適性を見極め、将来を如何に生きるかという考察を深めさせるにはどうすればよいか。
生徒指導	素直で真面目な生活態度の生徒がほとんどであるが、学校への帰属意識や集団への参加意識は必ずしも高いとは言えない。また、自律の精神の育成と自己抑制力の涵養に努める必要がある。	端正な服装や丁寧な言葉遣いを定着させるための指導をどのように行うか。
特別活動等	国公立大学合格者の多くが部活動経験者であり、学習活動と部活動・特別活動の両立はほぼ出来つつある。文化部の活動がやや低調なので活性化を図る必要がある。	生徒一人ひとりの自主性を伸ばし、それぞれの個性・能力を伸張させるにはどのように指導すればよいか。

4 中期的目標

- 1 生徒個々の進路実現を通して学校全体の進学実績の向上を図り、地域を代表する進学校という評価を定着させる。
- 2 特別活動や部活動の活性化を通して粘り強い精神力や頑健な体力を養うとともに、自主性や社会性、奉仕の精神等に富む人間を育てる。
- 3 端正な服装や丁寧な言葉遣いなど、道徳観や規範意識を備えた生徒の育成に努める。
- 4 生徒と教職員が〈建学の精神〉「継続は力なり」を共有し、切磋琢磨に努める。
- 5 すべての生徒・教職員が相互に尊重し合う豊かな人間関係を構築するとともに、健康と安全に配慮した学校づくりを推進する。
- 6 ホームページや「スクールガイド」を充実させ、中学校・地域との交流の機会を広げ、双方向の広報活動を展開する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進	1 出張・年休時の授業振替を100%実施し、授業時間の確保に努める。 2 授業方法に関する研究や『学習シラバス』の活用を通して、「わかる授業」の展開に努める。 3 全生徒参加による土曜日課外を実施し、学力向上を図る。 4 少人数授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入する。 5 国公立大学現役合格者数80名以上を目指して指導する。 6 効果的な教育課程を編成する。
(2) 入りたい大学への積極的な挑戦	7 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と早期における目標設定を推進する。 8 職業観育成セミナーや学問観育成セミナー、進路研究見学会を実施し、キャリアプラン作成につなげる。 9 日北セミナーや大学模擬授業を通して大学における研究内容や高校・大学のつながりを理解させる。 10 進路情報の収集と的確な提供に努め、難関大学への合格者を増加させる。 11 学習実態調査や全国模擬試験等を活用し、学習意欲の向上に努める。 12 課外指導においては、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。
(3) 「豊かな心」の育成	13 自律精神の育成と自己抑制力の育成に努め、日立北高生としての誇りを持たせる。 14 環境教育やボランティア活動を推進し、他者への思いやりや温かい心をはぐくむ。 15 礼儀正しい態度や端正な容姿の指導に努め、「さわやかマナーアップ事業」に協力する。 16 相手の立場になって考え、行動できる人間の育成に努める。 17 国際理解教育を推進し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。 18 特別支援教育の充実を努める。
(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立	19 部活動のより一層の活性化を図る。 20 特別活動（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）の活性化を図る。 21 J O Yホールなど、生徒が自学自習できる環境の整備に努める。 22 部活動参加者等に配慮した学習環境の整備に努力する。
(5) 健康と安全への配慮	23 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 24 生徒相談の充実を努め、生命の大切さを理解させる。 25 登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 26 校舎内外の巡視や門扉の閉鎖を行い、不審者の侵入を防止する。 27 近隣の小・中学校や高等学校と緊密に情報交換を行い、事故の未然防止に努力する。
(6) 情報公開の積極化	28 保護者や地域住民等に対する授業公開を積極的に推進する。 29 生徒・保護者・地域住民等による学校評価、授業評価を実施し、その結果を速やかに公開する。 30 学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報公開に努める。 31 学校説明会の充実を努めるとともに、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施する。 32 ホームページやスクールガイド等を活用して、積極的な情報公開を行う。特に、ホームページは内容の新鮮さに配慮し、週1回以上の更新を目指す。 33 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に積極的に提供する。
(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開	34 県内で進学校としての存在感を示す。 35 本校の将来像に合致した教育活動を具体的に企画し、展開する。